中村俊定文庫
文庫 18
885
1

八雲龍守
一葉舍仙鳧 校訂

校正 七部集

東昌軒藏板

凡例

一世に俳諧のふるきもあらるゝ中にあらるゝ者多し
い芭蕉翁正風の一道を世にひろめんとむねとのふ
門人の推尊とそれ〳〵て撰集なりゝるもの凡
い温翁のゝ多りとそのそんともる者くかれらも悉濫と
を一こと書こもるゝ小今流布の印本いりとと粗漏ほし
て書写の誤多くこまりる為ふ勾意きこゝろされい或ひ
と抱く者もくれらをよりくこゝろしい元禄の古板いい
とさらく真蹟及ひ諸集と参考し諸家の高説よ
りて悉く据とこゝを故ふ校正七部集とりゝ
一假字なりしい古学に因て正字もりゝこゝも俗談俚
言ふいくうていこゝをふまくれくもの音の近きふまくゝ
一詩題のたくしい元禄の古板といとこゝ假字脱字
あるこゝを本書に就て正まゝ
一校正ちりゝと改ゝりゝとも猶誤あゝい予り草鹿と
却てとゝくゝ速ふ改正ゝまるる庵ゝかりゝい加出
辛卯孟春あゝまた大城のもと中福の浜と
りゝまゝ

秘宝

乾の巻

春の日　初丁より六丁まで
夏の日　七丁より十二丁まで
いさこ　十三丁より十八丁まで
猪養　十九丁より廿三丁まで
續猪養　廿四丁より七十丁まで

坤の巻

阿羅野　初丁より二十八丁まで
炭俵　廿一丁より卒三丁まで

昌樹文庫

春の日

曙そんとくの戸叩きあんくく
熱田のうふかきぬ渡しふかろ
しくもの山法華のうもとおり
ていたかり重五ゥ枝打おりる
竹墻なちさふとうもとの
寄きとかもい出ける

二月十八日

まもめくもくくの侵寶あり　荷兮
猫ちる中　馬いなこう　連　重五
屋なつくの大ふあるかり　西桐
ちかふちくくきけを踏ふく　李風
くちりふ沖の岩ふくええ　昌圭
順廣寺ふ汗の帷子投うく陣　執筆
かのくく海苔をいかくく　重五
文王のもの山ふもの土つもく　荷兮
李風

雨の雫の角のなき草　雨桐
机をこそ一度い霄ぬれ世ふ　荷兮
傾城乳をこのくをこそ君哀　昌圭
勇らら入浴ふ人の影うつし　雨桐
わやくくとなくこそ弥興の里　重五
市居より半道奥の砂行く　昌圭
花ふ也男の帝さるあらし比　李風
祢よりさ浦てちくらふ鞠ふよや　重五
入るる日り蛙いてくふ　荷兮
うりうりと麦ふるる影ふ連泊く　李風
うふ情くく梓きくみる　雨桐
墓蕨とたるる行ふ切出く　荷兮
いくもうくこそみ位の針を　昌圭
松の木ふ高国う門いうふ　雨桐
ちくの行を見えぬ附るて　重五
朝朗豆腐とをふ出ちる　昌圭
念仏ふつふ秋あをもり　李風
穂蓼生ふ藏と泊ひる住ふく　重五

氣者を搗の名ふふよそる日　荷兮
傘の内を付ふちる雨の昏ふ　李風
行然ふる出家わくく　雨桐
かくきくあるくふくをのよもん　荷兮
約瓶ひくりを二人してわき　昌圭
世ふあそ屋撥ふ幸ちく　雨桐
記念ふちふ塔藏の苣烟　重五
いくをを花を行ふいくく　昌圭
寸ちををちくふゆく　李風

三月六日野水亭ふく　且薫

なら紙や烟うりの八幡ちく　野水
おりくちうをむうくの滝　荷兮
夫の鏡茶供ふるらん袴ふて　越人
ひちくく一さ清ふあなうの行く　羽笠
松風ふたるふ径の酒の殘　執筆
賣のこくくる色ふれ月　野水
星白き太秦ふ色ちく

菓あるはうりよのるとくあく　且菓
春町まいりとく二人愛剃ん　越人
先ひのう車ゆくもち　荷兮
鶯負く大はのあふみ　且菓
何やらさんあ山の春　越人
旅宮あくあるとうとはやうて　羽笠
萩ふこ　こふを万日のもち　野水
里人ふ蓼とおとをも秋の夜　越人
夢なこはうり重石おく　羽笠
ちろくるあの形ふ光の鉦ろん　野水
鶏ちるたるの湯の山　且菓
のくくや蔵笠の秋伊野の峯　越人
肉侍のえらふ代くの眉の園　荷兮
ぬふふ軍の中を斤わさう　羽笠
行もこのち栗と節ゆとケ　野水
大幸い会佛とるるえへも柳　且菓
ものと毎我うよさ隣ふも　越人
朝夕のあのくうふ拘犯うあく　荷兮

あ古ふ古日ちやき麦の粉　羽笠
一杯うる宿をるうふ寺れ里や　野水
こを魂まりるきふくの月　且菓
陽炎のもえのくうくるまゆよて　越人
ちる自神うは奇いちく　荷兮
田と杖くあくるりふ生くう　羽笠
力の邪とつさし中のる　野水
漣や三井の末寺の沈とふ　且菓
るいくのをそ重の山く　越人
えつをくうは九日の月さむき　荷兮
君の沈とえふ水ふみとけ　羽笠

三月十六日旦菓う田家ふをあうく

蛙ちくすくゆしき森光れ　野水
頼うあくるるのそて　且菓
厳烹る岩ふの鳥を宿うく　越人
まくくとをくるる馬のる　荷兮
ふくのる涙しの春の月新う　冬文

芦の穂を摂る　傘の端　執筆

岩のあなより落ちゆる里　且藁

百の日を籠堂　野水

ひくるるさくらの枝の一ぱう　荷兮

ゆるる沼をいかまほしく　越人

解てやおうん枝むしろ　野水

今宵いとうとうてゆくえ　冬文

廿九日荷兮宅ふく

咲ぬ菊ふたたび霜そ　越人

秋の和名うつくしる　且藁

初丁の声ふ[illegible]ぬ　順

別の日うなづくあ〳〵ちを　冬文

沈を花四の文よりハ唐物　荷兮

きやう〳〵の笠をむしり　且藁

永き日やゆ[illegible]と時ふ[illegible]ん　野水

冥の苺生ふるみ日の中　荷兮

紅陽う瓢いあり〳〵ぬ　越人

野水

連句のあ[illegible]ふ[illegible]る　冬文

[illegible]垂[illegible]柴押まけて音とゝん　越人

岩苔[illegible]の[illegible]　且藁

[illegible]　冬文

[illegible]二枚を[illegible]わの尾　越人

朝毎の窓あ[illegible]ぬ　且藁

碁[illegible]を送るきぬ〳〵の日　野水

[illegible]の[illegible]秋の日　荷兮

[illegible]の淀の[illegible]　冬文

あらまし[illegible]ぬ　野水

はら〳〵一朝[illegible]の[illegible]　荷兮

[illegible]　越人

[illegible]を[illegible]ふ[illegible]代　且藁

山い[illegible]所の[illegible]を　冬文

[illegible]　荷兮

追加

三月十九日舟泉亭

山吹のあ[illegible]を廻のうれ[illegible]　越人

蝶水ゆくとうゐかく咲そし　舟泉
きたちくさを脈脈をまつ　聽雪
り幸のうをうり波ふち　蠡鬣
朝りと磐の川瀧落のつゆ　荷兮
月れをを門くやくあを　執筆

春

昌陸の松といふをぬ法代の春　利重
元日の月れ百の競馬をるし　重五
初をのをを牛れかのを日ふ　昌圭
ゆをのをゆ春ゆ春あり麦の京　雨桐
門を松苔菜園のををむ　舟泉
鯉の寄ふ春の寄く梅白し　羽笠
舟くの小松ふ寄の折りをを　且菓
照の人氣牛丹寄ふふらきを　杜國
擂てをを元日里の瞰をれ　犀々
早ををくくうれまぬをのをの　呑霞
をををも小松ををん牛の菱　聽雪

朝日二分柳のうをく白ふ　荷兮
を俳て野の乗ふを寄ふを　公
芹摘ををけて酒わをを雛うぬ　且菓
のうれをる人の伴ふをく
ゆくを思ふ分野のゆ夕うをみ　越人
古池や蛙飛こむみの音　芭蕉
金一法の暗り胡蝶のやをふ　重五
ふを花墻根くの酒をやく　亀洞
花ふをうれて寄をを思ふ　越人

春野吟

足袋を猫を曲る唐ふ川　杜國
ふかを寺をうれぬかのふをく　李風
猫乗をて猫の逆をかをうれ　荷兮

餞別

首の花ををの川をの別この　越人
山畑の菜つをとをうをん夕日ふ　重五
なををの小春をられぬ花ををの寄　仝

ほとゝぎすとその山もるの尾ハもゝ　九白
新宮さゝゆけと焼くゝめる秋ふ　李凡
かつこ鳥板屋の脊そめの一足源　越人
うれしきハまろうれ物の一ッふ　杜國
ゑ行のうらふくゝ蒼の邦　亀洞
傘をとゝまで寝ぬる秋このな　舟泉

武蔵坊とゝふ

もゝのけやもゝて毋くゝの京川　商露

遊廓の秋くゝ三ゝ毋るわくゝふ四ゝ

馬のくゝわられくゝ夜の月　聽雪

老聃曰知足之足常足

夕ゝわふ新炊あつき黄瓦ふ　越人
幕市の燈雨ゝわれくゝ四ふ　柳雨
はきもふ秋ふ毋ふ弁山寒ふゝ　壁交
蕎麦ハ隠ふ黒きゝ花のいろ　荷兮
童池のふゝとふゝ深蓋ふ　仝
吃の長絵茶屋の遠きゝ　昌圭
長川の寺ふ宿のる山ふ後ふ　重五

譬喩品三界無安猶如火宅

とゝゝる心を

六月の汗のゝふ居る基ふ　越人

秋

資戸の烟ふ毋ふ毋ふ行ふ　且藁

貪家のむ楽

おゝ行ゝむゝ人ゆゝくゝ　越人
なきゝゝきゝ一寒人ふ　雨桐
ゝ行ゝ人をゝ行ゝ基ふ　芭蕉
山寺ゝ茶ゝくゝ月ふ　越人
毛ゝくふ山自ゝ秋の月　野水

八島をかゝる屏風の絵とゝ

具ゝゝゝ新ゝ月ふ　仝

待恋

ふゝ愛と毋愛ゝ月ふ　荷兮

閑居増恋

秋ゝゝ琴行ゝ絵ふ　仝
朝鳥ハゝゝつゝん水ゝ　舟泉

冬

馬いなれ斗ハ夕日の村雨れ　杜國

芭蕉翁と宿〳〵はなしくれ　大垣住　如行

素堂ハ故郷ハ故郷ハ故郷世界

雪のそら〳〵葉のそら〳〵　昌碧

アルさくまろむら雨の行〳〵　芭蕉

以外の煤ハ〳〵雪のそら　越人

芭蕉翁と別りてゝ〳〵る時

これ〳〵の水〳〵とる名残ハ　杜國

隠士ハかりれる宿をまうけて

なく〳〵きゝ茶袋なくしの雪　荷兮

貞享三丙寅年仲秋下浣

冬の日

笠ハ老遠の面ハほころひ氣衰ハ

とゆく〳〵のあら〳〵にりゆく

俗ハ〳〵〳〵るとひ人我さあつれ

ハ物ハ見るむ〳〵相方の老士ハ

風ハ〳〵〳〵半と石園おもひ

出て手傳る　芭蕉

狂句こがらし哉　野水

ものさび〳〵ハ行方ハ　荷兮

有明の月ハ酒屋つくり　重五

うつらの香とふるふあらうま　杜國

朝鮮の住ものきのふ　正平

月ハ〳〵〳〵ハ野ハ茶と荷　野水

我庵ハ塗ハ宿の汐あくろふて　芭蕉

繁〳〵やもてまをものふ月のほと　重五

いかものつ〳〵乳ハ〳〵ものて　荷兮

きこゆるとくハ〳〵とゆく　芭蕉

新法のいつさくむくちを殺て

あらしはいかんぞふきえし　虚家　杜國
田中なのるこそまんの御義のゆゑ　荷兮
春ふかみ川人をちんをの　野水
たそかれを横ぶまるる身ちたし　杜國
ふれくさうくさ所ぶ下り居る　重五
二の花ぶを猪の花のさかりさく　野水
蛙はむくくとまきの鼻この音　芭蕉
のくあふ蔦遠義なほろふる　重五
今そ恨の矢をそれ川こそ　荷兮
ぬを人の祀金の板の欲をさく　芭蕉
ちくく家抵のあを付くあ　杜國
笠ぬをて寄ぶ下ぶ月月　荷兮
あをを豆こけくくひをを苣　野水
ちらくくと碎ぶくくひ人の青ぶ　杜國
鳥織ハえひをの國のこのこ　重五
あをれをの遠ぶ下をけくく新云　野水
秋水一汁ぶぶつくをを板そ　芭蕉
月朱の雪白ぶ物ぶ月ををく　重五

中ぶ水横ををさむ既酒ぶ　荷兮
ふしの紅をふら鈴の笠のぶられぶ　芭蕉
蕎ぶ鏡の笑をいあく戎　杜國
ぶのいのをあけくくの笠ぶむく　荷兮
来くハいぶのまをぶをき　野水
綾紅をく屋湯ぶまの笑の鈴藻て　杜國
廊下ハ爰のぶけほくくあぶ　重五

おもくくも仕年

いまくくぶ待きくくのる　蕉水

ちぶ雪のくくくくぶ　杜國
ふまくくるる　芭蕉
ぶ業まくくぶ　荷兮
うつくくまれくくるまひきくく　重五
寂呂ぶ月被ぶ韻敷をるぶん
根花ををぶる負徒ぶ蛙　正平
るくぶる陸音の田鉢ぶくるを　杜國
奥のき馬くきをくくあく　蕉水

荷兮　芭蕉

野水　重五

杜國　重五

荷兮

杜國

野水

芭蕉

荷兮

芭蕉

野水

重五

芭蕉

杜國

重五

荷兮

杜國

野水

荷兮

芭蕉

野水

重五

芭蕉

杜國

重五

荷兮

杜國

野水

芭蕉

荷兮

正平

[illegible]

重五

杜國

芭蕉

野水

杜國

荷分

野水

重五

荷分

芭蕉

重五

杜國

芭蕉

野水

杜國

荷分

芭蕉

重五

杜國

畠六反

芭蕉

野水

杜國

荷分

野水

重五

[illegible]

荷分

芭蕉

重五

杜國

芭蕉

野水

杜國

荷分

野水

重五

荷分

芭蕉

なを山は陳ろあし炎焼哀そ

ちゝ宇ま[illegible]れと

重五

[illegible]の[illegible]の[illegible]を焼　塵　寒く

荷分

[illegible]の[illegible]の[illegible]

杜國

鶴えるまとの月うけるあり　野水
の芋吹ぬ秋の日雅ふ酒れきす　芭蕉
義臧る芝と市ふ根きる　羽笠
砂義川や烟塵千代まつ徴をし　荷兮
いくとしの年なりつ　重五
おのへと布搖寄わわとれて　野水
う武ハとちを越る三平　杜國
抜られてくねる聲の離れる　羽笠
火ひるぬ巨燈ちと人とえん　芭蕉
門ちの霧ふ帝ふうて藤る　重五
血刀ふ月の時をう　荷兮
旁ふ幸卿の陣ちく　杜國
ふ西まつ烟ふくふ　野水
ふれ西陣柳の熱ふ　芭蕉
傳ものを秋歎を　羽笠
白燕酒ぬふう初とは　荷兮
宣旨うふ叙を禁る　重五
八十年と云る童毋ちく　野水

なるちちをもる七夕のつま　杜國
西南ふ桂の花の川ふむと　羽笠
蘭のあふうトは川ふ　芭蕉
絲の影ふ賢なる女えて　重五
泊瀬ふ雲とあらふ　荷兮
えふふ抜ふうふ　杜國
つみものる角蓼の文　野水
寅の月結具と泊瀬の鳥記く　芭蕉
雲かうり　き南京の地　羽笠
いうふ　て雉とふ人の像　荷兮
泊ふふうのきふ花芹の根　重五
粥ふる　ふかふ　野水
結る名のトう　澤人ふる風　芭蕉
小結ふ　ふ　澤中ふく　羽笠
結れぬ蓼を蓼ふ　杜國

田家眺望

春月や鶴の行くえ　荷兮

芭蕉
重五
杜國
羽笠
埜水

芭蕉
荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

芭蕉
荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

芭蕉
荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

芭蕉
荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

芭蕉
荷兮
杜國
重五
野水
羽笠

追加

つのふるやを雖面うしとうの愛　羽笠
行ちふあるこれちうの雲　荷兮
うくさ荷ちうふ数をもたて　重五
梅ちうう高とや川を朝参　杜国
根う　餘のもん月をあ　芭蕉
ひうふ梅とちうふ波阜山　埜水

ひさこ

江南の琢碩家うひさこを送れうこれい
是ふ將とあつ酒とあ〜ちう器ふを
あ〜ひ或ちを梅ふ造ちく江湖をわく
れといくるふくふを異ふう五まく後
の惠ふうて用ふくるをしらふ
ふ〜〜井ふほとうふ醒うあ雪う
て井〜ちふ流る醒くちうふ日月陽秋
きちうふて雪のあけふの園の
郭ちをこうけくるとれくなふ名
ふくくちうをきちうて皆風雅の
藻思をいくるちくまて見いいれ乃
中ちふふ〜〜く乾坤のふちくをを
出く井ふのちを云くふ毎日此用ふ井て
つ文

元禄三六月

越智
越人

花見

翁　本のもとふけを鈴もかけうれ

珍碩　西日はとうふよりさきに天氣あり

曲水　腰人の風うきゆゑ〳〵まちそれて

翁　たちそしなすなたち刀の鐺

碩　身はなく假の四喜の月石

水　勅問つくる松うまやの

翁　鍬垂る三歳弱ふ秋の末て

碩　名ハさまゝ〳〵ふ深野る雨

水　入ぬつふ張討の涌湯のつ雲

翁　中ふとをたんのうるさ山伏

碩　いふるを唯つ方へ蕨〳〵

水　たちさ初のよう京つのりて

翁　拍ふり人多ふりの蓉〳〵せられて

碩　身えるる蕨の神を佐ゆ

水　秋風の西をうたうる波の言

翁　屋ゆ〳〵こゝや白子ふ雲

碩　ふ紙侯京のさうの多因

順徒花ふ歌道のうけろふ

水　行ふを蛙の花をあもれある

翁　又ちはるのちゝさうさなき

碩　羅うり日をいたるゝ出かゝち

水　結ゆしゝさと法ふんを

翁　ふ赤ゆ紀の国るこの頑

碩　酒てたけるあゝまれんん

水　双六の負を歌ゝまて蕉のう

翁　假の持佛うむのふ会佛

碩　中ゝふ古ふ居ふ春の枝し

水　ゝふゝを里のなるとかの

翁　ゝふを里のなるとかの

碩　恨れゝいゝる雉の行と黄

水　身秋ゝゝうゆとゝる日

翁　花ちゝさあまり拓ちゝら拓く

碩　唯四方なる草庵は霧

水　一貫の渉むつゝとうゝ

翁　磨去のゝちゝいゝ除ふ分別

碩　花ちけを苔鉢あゝりを六廻

水

咲ちらしてうゑまきの山中　頑

翁土　玲頑土　曲水土

いろくの花もちらしや春のそら　玲頑
うゑて酢の美いさをめぐる　翁
蝙蝠の枝とゝふつらとゝ生て　路通
空蟬のゝ羽しゝぬ涙紙こゝり　仝
笠蘇の葉とうまふかるゝ年暮　頑
紅葉なるゝて月ゝあるゝ　仝
秋の色あるのゝとりせのゝ　通
ゝゝくゝれくハ美ゝおゝくのけ　仝
うゝ葉の羽織青ゝ紅まきて　頑
めゝらゝゝ市のゝつゝる　仝
絶間のちゝくゝる川の端　通
会佛ゝくとりむゝつのき　仝
うゝゝゝ美ゝ年の暮　頑
底陣の男ゝ大ゝおゝきれ　仝

脇ゝきれき人の堀つゝ　通
花いあゝよ月ゝ紙夜　仝
ちゝのゝ根の下を和日ゝ　頑
生網あゝる浦のゝ舟　仝
此村の廣ゝ鷺ゝのゝ　荷
ゝゝんおけゝものゝとゝ　今
ゝゝる世を逆風ゝ　越
まゝ酒ゝ酒のゝゝ　人
ゝゝる秋の夕ゝゝ　今
蕎麦ゝ山の相中　人
うゝんゝ月のゝ身の新　今
ゝゝ川みのゝゝ裸むゝ　人
ゝゝゝ嘉ゝゝゝ　今
文隙の新酒ゝ藥特ゝ恵藤　人
なれ加減又ゝ世ゝ　今
ゝゝ世ゝ蔓ゝ　人
ゝの木枝のゝゝゝ棚　今
ゝふよゝ新ゝ別ゝゝく　仝

汗の香をかくしてくれをとうぬし　人
ちりつもる雪をちりあけてゐる　仝
花をうつす又百人の指をうつ　今
ちい脱ぬ　おもしさをる　旅　仝

珍碩九翁一路通八荷兮十
越人八

城下

後地の色をうつす月ゆ　野経
砂の中麦の痩くちらつく　里東
面風ふきすかの中貝拾せて　泥土
なまめる一川湖へうるみしろ　乙州
蓼ひさうひ二人ちるみ　怒誰
秋の秋書の相まうの　珍碩
如雨荒ふ相手ふ物ちられて　筆
月の中おもくて見ちるる　野経
ちふかの又川原砂をよろ　里東
新のちくきれつさなろ　泥土

馬ふ百邦を愛をくやらく　乙州
一里ちちらら　山の下　苅　怒誰
又新を見て岩屋ふ苔あられを　泥土
苔れ世をなちく面くれと　里東
ちち面ふ笑越の松めのきさうふ　野経
ちちふつれく丁百の粥　乙州
月新ふ庵屋をちちるあせ　弥碩
蓑ちめの陸のくちをふ巌　怒誰
くるちふ付ちれ新をもられす　里東
宗氣遠の坊を注出を　弥碩
のみふ居所の蓋れの一ちき　乙州
ちちちちのおる　蒲　食　野経
ちくハ百姓まちち馬帽ふて　怒誰
酬所をとちふ供所の蛤　泥土
ふちちをいふ幽夫の法やん　弥碩
連を力をちれ弁既ちう　里東
かくれの大臣寺縄を必遠し　野経
表のちちふ用十へちき　乙州

糊剛さ夜長ふちひさき庭蔭て　泥土
ゆふべの月ふ菜食嗅出さ　怒誰
看経の鐘ふ海さ　里東
四十ハ老のうらうら　珎碩
鬢うせふ枕の跡と藤垂　乙州
醉と細月うあうあく吹うう　野経
杉村の花ふ蕎ふ面寄つさ　怒誰
田の庄陽う苟のううさう　泥土

野経六　里東六　泥土六　乙州六
怒誰六　珎碩五　筆一

雑

乙州

蛇の甲京らうう時さ時ふ
唯牛　囊ふ風のふく　珎碩
百姓の木綿仕舞さ　里東
小雨さうふうう　探志
猶寒く奥の百姓の母　昌房
涕流くきゆる炉焼　正秀

秋萩の陰茅ふちうさ坊うれ　野経
風呂の加減の声のうあうう　二嘯
蕎の実さ赤ふて時いく　乙州
雲のゆうなるかまをこの雲　珎碩
夫門花ふ鶏の笠稲屋うう　里来
人のううふ意さあつける　探志
白菊の番ふ吹さうふ弟の後　昌房
庫うう起く笑いる時　正秀
淺ハの中芋さけさ月わり　及肩
ちさ上寒も天ゆる　野経
芋ふ蜜る羽の町屋の今年来　二嘯
者さ花ふ霧のだ〜えき　乙洲
うす墨るいうんうう寒ふれて　珎碩
沖いんならふ寒の知りぬる　里東
法てうさふ絵の仏さ花　探志
提あまされて寒さあけふの
時のうふ菜雁の下と水付　昌房
俗馬と呼る氣まうり口　正秀

いきとしける猶一きちふ捷　及肩
あくとこうつる　銀　瓶の秋　野經
ちとくとの切籠の紙をふ風雪て　二晡
幸かの序ふ　ふもほのうぶ月　乙州
咎和ふ味めくくとて蛙くるを　弥碩
蜻蛉うちい次う居ぬる　里東
月とめくまを光のうとをうのて　探志
うひふちくうとき宮上侍　昌房
ふこしふを紙行ちて海ふけ　正秀
縄と集る寺乃上茨　及肩
光の次宮の月行ふ芦ぐ光て　野經
さくらふ狩ふ柳なのまを風　二晡

乙州四　弥碩仝　里東仝　探志仝
昌房仝　正秀仝　及肩仝　野經仝
二晡仝

田野

蹟道や苟代　附の角大師　正秀

附色たのまむ　弥碩
蒲ふこのわやくふ　嵐の新　仝
かまくをのくき門口の文字　秀
月影くく利休の気を曩ふを　仝
家くく芋と世をとうあり　碩
ちは皆つ洗くくとかもむ　秀
丘ふくくの本後くかある　碩
碧文と百もくてる別紙ふ　秀
なくくくくくう侍の侍　碩
須广いまくの月中ふ重不　秀
孤のとるうかくうやる　碩
月ふる師光の宮行宿河　秀
宇行木居くる居を進ま　碩
いくぬくて古紙さくもおくれて　秀
猶ある子を　緩　緩ふ彩る　碩
行戸酒を芋宮ふ歩くう　秀
あひの山彈　ちの八重　仝
重歩巧里ハ厩糞ふき蕎し　碩

さとゆらく居る禅門の祖父　秀
本堂ハまだ荒壁のあらはにて　碩
羅綾の袂しほりかねぬ　秀
歯を痛人の姿を絵にかく　碩
薄雪たるむまくら[illegible]　秀
蓑経の宿に紙燭を挟おき　碩
口上果ぬいふさまの時宜　秀
多やさなに小刺うさある草袴　碩
秋入初る肥後の熊本　秀
実り綿に留て月みる孫若紅　碩
ゑ布子ひとつ川狩をこるり　秀
沢山に兀めくくと叱られて　碩
呼ありけるに猫ハ帰らせ　秀
子規啼小人町の雨あかり　碩
中将の楓木の芽かえ之　秀
ちらちらに[illegible]りまる春あらく　碩
小野の[illegible]に[illegible]かけるに　秀

正秀 十九　珍碩 十七

猿みの

晋其角序

誹諧の集つくる事古今にわたりて此道のおもて起べき時なれや幻術の第一として其句に魂の入ざればゆめにゆめみるに似たるべし久しく世にとゞまり長く人にうつりて不変の変をしらしむ五徳はいふに及ばず心をこらすべきたしなみ也彼西行上人の骨にて人を作りたてゝ声はわれたる笛を吹やうになん侍ると申されける人には成て侍れども五の声のわかれざるは反魂の法のおろそかに侍にやされば魂の入たらばアイウエオよくひゞきていかならん吟声も出ぬべし只誹諧に魂の入たらむにこそとて我翁行脚のころ伊賀越しける山中にて

猿蓑と云もこれ俳諸の祖と人
ゝまれ又洒落たるもまた新編の部中
に叫び者毎あるこゝに曙の幻術
なりあるこゝ生と元とし一て此集とつゝ
こて猿蓑といふ名付中に洒落の花
う序をもこれ也とゝ思ふ魂と合ちこゝ
去来元祝の序しゝ者の詩て

喜

十九

喜

和しこゝを猿蓑と名付けゝ　芭蕉
あ生まけゝ時自然る歌の序の考　其角
時自然や並ひいるこゝ　千那
来人の時自らけめく野面の稽　僧 丈草
俳諸の程推こゝるしこゝれ　孫 正秀
度俳やひこゝ志こゝ　史邦
無人よめこゝて所しゝ時自こゝれ　尚白
伊賀の境ふ入こゝ
なりのこゝ志こゝの陣の一時自　曽良
しこゝ志無ふこゝの定こゝ　凡兆
こゝ志こゝ作自の早やりしこゝれ　天津 乙州
たまこゝれしゝ早の光やわ新河自　羽紅
我回り稗殻拾こゝしこゝ拾ふ　勝所 昌房
いこゝ志中の時自のこゝ帆片帆　去来
こゝ志ふ山りや少年の早みお　伊賀 百歳
一こゝも和こゝものれこゝ雲新ふ　野水

[illegible] 其角
[illegible] 仝
[illegible] 凡兆
[illegible] 嵐蘭
[illegible] 芭蕉
[illegible] 凡兆

[illegible] 伊賀 土芳
[illegible] 膳所 裾道
[illegible] 伊賀 越人
[illegible] 猿雖
[illegible] 凡兆

[illegible] 其角
[illegible] 伊賀 車来

[illegible] 尚白
[illegible] 珠碩

霜月朔日

[illegible] 伊賀 良品
[illegible] 羽黒坊内 不玉
[illegible] 尾張 且薬
[illegible] 去来
[illegible] 伊賀 探丸
[illegible] 尚白
[illegible] 江戸 亀翁
[illegible] 凡兆
[illegible] 芭蕉
[illegible] 其角
[illegible] 凡兆
[illegible] 尾張 芥境
[illegible] 伊賀 半残

貧交

[illegible] 丈草
[illegible] 曽良
[illegible] 去来

[illegible] 史邦
[illegible] 文草
[illegible] 千那
[illegible] 丸兆
[illegible] 木節
[illegible] 文草
[illegible] 路通
[illegible] 且菓
[illegible] 杉風
[illegible] 其角
[illegible] 長時 暮年
[illegible] 大津尼 智月

[illegible]

[illegible] 紙舎 曾良
[illegible] 探丸

[illegible] 文草
[illegible] 史邦
[illegible] 野童
[illegible] 伊賀 蜂禾
[illegible] 丸兆
[illegible] 歴史 畫母
[illegible] 其角
[illegible] 史邦
[illegible] 羽紅
[illegible] 探丸
[illegible] 丸兆
[illegible] 仝

[illegible] 芭蕉
[illegible] 尾張 其角
[illegible] 羽笠

雑こそ連なりこそ寒きことひ　長崎　卯七
ひつつのけこしりやもそらぶのそ〜まさき　去来

青亜追悼

乳のこそのふ世を渡しこそ侍ぶ　尚白
この〜敵い京地の病もきの内　芭蕉
侍こそきあこそれい敵ふ仏あのろ　乙刄
一身い我ふ弟イせ御こ〜き　文草

往吉奉納

杉邦二年や鼻息白〜面の内　其角
茅季作ふ又のこそ和きこそ（伊賀）　順琢
あ〜やこそちいや〜きそ〜神　仝　祐甫

乙刄ふ新宅ふ〜

ふふ氣と買せ〜く我い年忘　芭蕉
弱法師　我門やせ保の扎　其角
歳の和や弟祖父ときけい少れ　長和
こそ侍のつこそいのこ〜の宿　去来
こそこそのこ〜けや侍まあ　仝
ふこ〜やものあれこそろ　羽紅

やこそれて又やきもひ〜ろ衆の暮　其角
い拡く〜と人ふつこそれつ年の暮　路通
〜の言破れ袴の寒くこそ　杉風

夏

資明の面おこきやほこきて　其角
こそこそ暮こそ方や附る　木節
ぬこと稽こそるひひよほこあ　芭蕉
附こそふ侍こ〜行もなし　尚白
おこきぬ侍ものきぬ門梅　允兆
こそこい〜ぬこそ部ろ　智月
蜀意ふ〜やふのろの角橋　史邦
入おのひこきの中やなこきて　羽紅
侍こふれ附こそかこのつ〜ぬ　文草
ふかこそ代皮袋やほこきぬ　去来
これ孔そ我塚てふ附る遊女　奥刄

杉侍一見の附ふもこそ
情の毛衣こそめ〜きれた

杉苔や打ふる雨と[illegible]　曽良
うき我をさそふ山ほとゝぎす　芭蕉

旅館産を[illegible]
[illegible]風雲のうふるも一ちうう　曲水（曙呼）

四月八日詣慈母墓

[illegible]ふうつ〳〵[illegible]る[illegible]り　其角
[illegible]れぬ花と牡丹の姿哉　全峯（宇）

別僧

[illegible]　越人
[illegible]のあるへ[illegible]　珠碩
[illegible]られてもまつ[illegible]

[illegible]　杜國（七人）
[illegible]　京蘭
井[illegible]　半残
起[illegible]ふまきれぬ朝の間の
起[illegible]　仙化

題去来之嵯峨落柿舎二句

[illegible]植る畑も小[illegible]　凡兆
[illegible]　曽良

南都旅店

誰[illegible]の園の柏　千那
[illegible]柿の花　薄芝（尾州）

豊國ふく

[illegible]　凡兆
[illegible]　去来
[illegible]　芭蕉
[illegible]　正秀

明石夜泊

[illegible]　芭蕉
[illegible]　越人
[illegible]　其角
[illegible]　芭蕉
[illegible]　岩翁（江戸）
[illegible]　尚白

六月六日大坂うち死の遠忌

弔ひく

大坂や夏なよ行夏の六十年　伊賀　蟬吟

奥見る館ふく

夏山や兵士の夏の跡　芭蕉

這出よかひな出うち出の蛍　仝

此塚も動くなるかなつのみや

かくしつつ角ふりたてし武士　仝

五月雨ふるかつて行たるかな　九兆

行春や鳥なき魚の目に涙　木節

ゆく春の謂ひ舟あり三月尽　史邦

奥路各々方の那ふ入て中拾貝方

の塚ふいつこわやと見ぬ道より

一里ばかりの方に塚ふ

手ふれ見てしふりつくるる

五月雨いとわるまく手ふるるる

ゆく春やいつこ五月のぬかり道　芭蕉

大和紀伊のさかひにて

伊勢の順礼をとゝめて

なれ枝をつくるる

つくるもたゝれの一塚や五月雨　去来

数列や つ夜ふ傾く五月雨　九兆

りの月や 蓑 傾くみ月雨　芭蕉

絵師和尚 ゆ月 せてようこそ五月雨　羽紅

七千余の老聖ふまるる

こゝろ〻〻なくまく手にてこの雨を

けるるの老聖ふまるる

ちらふ足まるふあるるふ

ゆるるふ

六月や力ねしやみ月　百　其角

百姓を考へ出て去来

ふるるさや笠山ふ月まぶれ　正秀

つゝみ合つゝみたのくけや麦畠　仝　遊力

孫をおしへ

○徒らの

[illegible]の[illegible]して[illegible]やらん　面壁　智月

[illegible]　[illegible]川の[illegible]　[illegible]　花紅（江戸）

風流のたましめや奥の田植うた　芭蕉

[illegible]

屑籠を面影かしてあれば[illegible]の[illegible]　仝

法隆寺開帳南無佛の[illegible]を辞す

内侍の[illegible]　千那

因の畝の[illegible]ひり[illegible]　万乎（甲賀）

膳所曲水亭

[illegible]

[illegible]　去来

[illegible]二句

[illegible]の[illegible]　凡兆

[illegible]　芭蕉

三越野へ行る時

[illegible]八鬼尾谷　田上尼（ヒサキ）

[illegible]　尚白

[illegible]の[illegible]　半残

病後

[illegible]　大阪　何処

[illegible]　乙刀

焼板縛と[illegible]

[illegible]の[illegible]　嵐蘭

餞別

[illegible]　膳所　里東

[illegible]成人[illegible]

[illegible]

[illegible]　其角

[illegible]　[illegible]　文草

[illegible]　嵐雪

[illegible]　膳所　探志

[illegible]　芭蕉

[illegible]　伊賀　槐市

[illegible]　凡兆

[illegible]　千那

[illegible]日の夕　史邦

素堂之蓮池邊

白雨や蓮一枚の枝あるま　嵐蘭

日焼田や附くつくつくつくつく蓮　乙刀

日の暮さ　盥の底の蟻うれ　九兆

[illegible]　仝

日の暮やうれて[illegible]　正秀

[illegible]　木節

[illegible]　野童

[illegible]　羽紅

[illegible]　江戸　巴山

千[illegible]

[illegible]

なさ人の中仲も今や土用干　芭蕉

[illegible]　嵐蘭

[illegible]　宗次

[illegible]　九兆

[illegible]　千那

[illegible]　曽良

[illegible]　去来

[illegible]

[illegible]　大阪　之道

秋

秋風や[illegible]　不[illegible]

比夕東武[illegible]　素堂

[illegible]　杉風

芭蕉[illegible]　路通

[illegible]　琢碩

加賀の全昌寺に宿す

[illegible]　曽良

[illegible]　山川

[illegible]　九兆

[illegible]　去来

大比叡や[illegible]　野童

[illegible]　九兆

文月や六日の[illegible]　芭蕉

金鈴の五月雨をつゝむ哥の新　芭蕉
七夕や行まういとゝふしゝ　伊賀ふか年　杜若
ゝゝ行まゝゝとゝ　去来
おもゝわい鶏頭の百の花　伊賀　凡兆
葉やめゝこの蔓のほとゝ　勝野　及肩
笑ひ居るも仏さる木槿ゝ　嵐蘭
ゝをとゝてとゝてゝゝ　杉風
る鶏冠ゝゝゝゝ　千那
ゝてゝゝ　史邦
ゝゝゝ蔵の角ゝ　且薫
秋風やゝゝゝ　三川　子尹
遠ゝゝの灰ゝゝゝ　羽紅
八月おゝゝふ松ゝて笠ゝの
文ゝゝる庵ゝ
まゝゝ　拐の生の落うゝ　凡兆
ゝゝゝゝゝ
いゝゝゝて初もゝて
ゝゝゝゝゝゝ　去来

笑所よゝれゝゝ　平田　李由
元禄二年義ふ俳ゝられてゝゝ
ゝゝ戦ふゝゝ
加賀の国ゝゝ
まて生ゝゝゝ
いゝゝゝゝれ　曾良
桐の葉ふゝゝ　芭蕉
百舌ゝゝや入ゝ　凡兆
初雪ふゝ松ゝれ　七人　落梧
望月ゝ
病屋の松ゝふ義ゝ　芭蕉
庵ゝの赤い小角豆ふゝ　同
加賀の中松ゝ
の宮拾ゝて実ゝ
ゝゝ国ゝ綿のゝ
ゝゝゝゝ
むゝん丸甲のゝ
菜畑や二ゝの中の　尚白

○猿ゝの

[illegible] 風麥

[illegible]

葉月や名残ふ波ろ人ふあん　千子

こり月ふ蕎のあくまよりろ　之道

栗稗と月ふ[illegible]　半残

月ふ[illegible]　去来

爺と茅舎ふ[illegible]

[illegible]　伊賀　士芳

加義ふ[illegible]

[illegible]

月新や[illegible]　懐の上　史邦

友達の山[illegible]

[illegible]

[illegible]　伊賀　卓袋

[illegible]　乙州

[illegible]　仲間　文草

[illegible]　九兆

[illegible]　尚白

向のもさ者と月ふる笑ふ　曽良

元禄二年つるゝ[illegible]

[illegible]

古例をきく

月清し　拾ひのまゝ[illegible]砂の上　芭蕉

仲秋の望猶ふ[illegible]

[illegible]　去来

照月や[illegible]寺の[illegible]　勝所　昌房

月ふ[illegible]人の[illegible]　羽紅

[illegible]山のいもの中ふ[illegible]　尚白

初潮や[illegible]の[illegible]の[illegible]　九兆

一戸や[illegible]　去来

稗の穂の[illegible]　越人

浮糟やかゝ[illegible]　正秀

[illegible]てきゝ[illegible]　嵐蘭

一鳥不鳴山更幽

物の[illegible]　九兆

[illegible]里[illegible]　曽良

旅枕秋のつき今はの下　江戸　千里
蛩哭や屏風の奥の蕎麦畑　珎碩
よりとりてる秋の天　允兆
雞つる比と有しに雞つ　半残
田舎間のうすき月の栗の葉　尚白
墨をとる蛩まつ夕ふ　其角
言ふを小鶉の哭りや　珎碩
うれしの初りいるく　稻の秋　土芳
稻うく冊子をむりくるぬ　允兆

自題落柿舍

柿めしや柿ちちこけし山　去来
きくこをやゆくく柿の下　盧生
吸ものく　先切山のうすき　允兆

祇田素

さのいこそひの柏ふのあれる
祇田素の旅くう川　蚊足
柿ちくあちまれる
ちちこちの瓦とまりう小　嵐雪

秋の日ぬ弱るちこ　文草
ちちる秋の夕や風わうく　允兆
世の中い鶏鳴の尾のなまふ　仝
蛙奥の蜀ふきをうふや秋の雪　荷兮

春

梅咲くく人の恋めの脇めあて　露沾
上臈の山荘ふましくちこ
候しまちくく
梅う雪や山後流入犬のまる　去来
梅くまや　ふ入ぬ牛の角　句空

庭梅

梅う雪や砂利しこ流ちの奥　土芳
ちの川坊や背ちこ分もし梅の花　半残
梅う雪や囲りうひの咲しき　暉峯　嵐
ちこのあや付つ鶏と鶏のこう　其角
子良館の後ふ梅有ちて
ちふの石ふの　ちくく梅の花　芭蕉

痩藪や作りこなれの梅の梅　千那

灰捨て白梅うるむ垣ね哉　凡兆

日当りの梅咲ころや屑牛房　膳所 支幽

暗香浮動月黄昏

入あひの梅になり込ひゞきかな　風麦

武江におもむく旅亭の残夢

寝ぐるしき窓の細目や闇の梅　乙州

辛未のとし弥生のはじめつかた
よし野ゝ山に日くれて梅の匂ひしきりなりければ
旧友嵐窓が見ぬかたのこの花や匂ひを
案内者といひけるをおもひいでゝ
此句をおもひいでゝもおもはれて感動
身にしみて涙おさへがたくひとりおもひいでけるに
その夜の夢に遠くもかはらぬすがたを見せ侍る
ことさら亡人いまだ風雅をわすれざるや

夢さめて又一日暮の梅　嵐蘭

百八のかねて迷ひや闇の梅　其角

ひとり寝も能宿とらん初子日　去来

野畠や雁追のけて摘若菜　史邦

古川やこぼれて青き若菜哉　嵐蘭

雪の舟御かはらぬ去年の岸　如行

憶翁之客中

旅寝して菜をつまんしるし草枕　嵐雪

つみすてゝ蹈付がたき若菜哉　路通

七種や跡にうかるゝ朝がらす　其角

宿すとに鍬のみけし根芹かな　文草

うすらひやわづかに咲る芹の花　其角

獺ふるし松のくらきに月秋に　仝

鉢たゝきこぬ夜となれば朧なり　去来

鶯の雪ふみおとす垣穂かな　伊賀 一桐

うぐひすやもゝや椿のあかくうれ　江戸 渓石

鶯や遠路ながら礼がへし　其角

うぐひすや下駄の歯につく小田の土　凡兆

鶯や窓うち象とさまよふか　伊賀 奥日

中々の雪を梢にかゝりけり　探丸

此藪はさらに枯ゝき柳かな　江戸 卜宅

姫こ〳〵ふる〳〵へてそふる柳　水　遠水
よること川柳ぶかること柳　水　尚白
ふる柳のちるこんや紅の紅葉　伊賀　一吟
ちるけや　蛉いうそ　場のちみ　日　木白
侍中の西日ちるやこうり日　揚水

田家　水花〳〵

ちるり〳〵ふる門ちる音ろ猫の妻　芭蕉
ちらぬまり〳〵おもひ切時猫の色　越人
うきちるふかまるのて猫の色ちるる　去来

露沾公ふて餘寒の當座

ちる風ちぬきとちこめる羽織　亀翁
ひの梅のちり〳〵れ宗ちこ二月　尚白
出ちちりや堰ふあまれるこちみ　亀翁
出ちりや初ちろふ物あちる　嵐雪
背生のかこちるこ雨芳　九兆
白魚や法吉いち紙のうへ今せ　其角
人のあれこちられて梅や梅雨音　尾張　杉峯
ちる白ふこちこ出ちうつ〳〵し　元志

荷兮
陽ちや取ちこうある雲のこ　百歳
うけろこやちちれこれちあこし　土芳
かけろこやほろ〳〵ちる岸の秋　伊賀　氷固
いこのいこあこうし鹿木こ　九兆
野こふこあこちこ梅ふ　配力
うけろこや笠縫の糸の長ちう　芭蕉
ちあふ鳥川のこせ作り猪居　嵐雪
物背のちふこうるわふ　砧通
彼岸まくさ　ちこ二度ふ　野水
ちのちや花のちうこて湿雲係　九兆
義経ふ京く藤のかちん道
こちこく文や紀の丁せの月　沢雉
ちるや屋根の山ちの芒咲ぬ　嵐虎

○猿蓑

ちる山ふ水く
ちる白やふうう出ちる色の門　猿雖
ちれこちやうこ紅ちの白　芭蕉
ちる白や田舞のこまの鍬美　史邦
ちるるのおろや汗ちる色　羽紅

[illegible]苗代[illegible]の畦てこひ　史邦
[illegible]や中の糞　昌房
[illegible]の[illegible]　去来
[illegible]の空[illegible]の[illegible]　伊賀　荻子
[illegible]とんぼの[illegible]　羽紅
[illegible]　三河　烏巣
里人の[illegible]る田[illegible]の[illegible]　嵐雄
[illegible]の[illegible]　半残
[illegible]　加賀山中　桃妖
[illegible]　伊賀　園風
[illegible]　珠碩
[illegible]の[illegible]　士芳
[illegible]て[illegible]　芭蕉
越[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　九兆
[illegible]　伊賀　石口
[illegible]　杉風

芭蕉庵の[illegible]　芭蕉
[illegible]　曲水
[illegible]　江戸　山店

畫讃

[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]　車来

[illegible]　羽紅
[illegible]　津国山本　坂上氏
[illegible]　芭蕉
[illegible]　伊賀　利雪

東叡山[illegible]　其角
[illegible]　尚白
[illegible]　凡兆
[illegible]　丈草

有明のをつ〳〵ゝ　史邦

ゝ所ふるとてゝ　千那

葛城のふりとゝる

ゝ　芭蕉

いゝ丹国ゝ姫の花ゝ南ゝの

八ゝ稼の料ふ付られゝゝ

伊賀ゝ

一里ハゝれゝ花ゝ

七文の墓東武谷中ゝ

ゝれ廿年の後ゝ地ゝ墓の

ゝ稼稽ゝ付ゝ冊の

ゝてゝ稼ゝゝ

墓稼稽ゝゝれ付ゝて

ゝゝ　園風

ゝゝ　去来

ゝ花の郭ゝ　九兆

ゝ

ゝ　叙　半残

時ゝゝれゝ中のゆふ〳〵ゝ　長眉（伊賀）

花ゝ奥ゝゝゝ

大ゝゝ〳〵ゝ奥の花の果　曽良

道灌山ふの

道清ゝ花ハゝの代も嵐ゝ　嵐蘭

源氏の絵ゝ

探千に

庚午の感ゝ

焼ゝゝれゝ花ゝゝ　羽紅

ゝれゝゝ　北枝（加賀）

海棠の花ハ清ゝ　凡兆

大和路の

ゝ　芭蕉

ゝ　探丸

ゝ　智月

ゝ　山川

ゝ　式之（伊賀）

〇猿ゝの

木曽塚

ちる花にたゝらうらむる比良の杣　乙刕

春の夜ハたれか初瀬の堂籠　曽良

望湖水惜春

ゆく春を近江の人とおしみける　芭蕉

鳶の羽も刷（カイツクロヒ）ぬはつしぐれ　去來

一ふき風の木の葉しづまる　芭蕉

股引の朝からぬるゝ川こえて　九兆

たぬきをおどす篠張の弓　史邦

まいら戸に蔦這かゝる宵の月　蕉

人にもくれず名物の梨　來

かきなぐる墨絵おかしく秋暮て　邦

はきごゝろよきめりやすの足袋　兆

何事も無言の内はしづかなり　來

里見え初て午の貝ふく　蕉

ほつれたる去年のねござのしたゝるく　兆

芙蓉のはなのはら〳〵とちる　邦

吸物ハ先出来されしすいぜんじ　蕉

三里あまりの道かゝえける　來

この春も盧同が男居なりにて　邦

さし木つきたる月の朧夜　兆

苔ながら花に並ぶる手水鉢　蕉

ひとり直りし今朝の腹立　来

いちどきに二日の物も喰て置　兆

雪けにさむき島の北風　邦

火ともしに暮れバ登る峯の寺　来

ほとゝぎす皆鳴仕舞たり　蕉

痩骨のまだ起直る力なき　邦

隣をかりて車引こむ　兆

うき人を枳殻垣よりくゞらせん　蕉

いまや別の刀さし出す　來

せはしげに櫛でかしらをかきちらし　兆

おもひ切たる死ぐるひ見よ　邦

青天に有明月の朝ぼらけ　来

湖水の秋の比良のはつ霜　蕉

紫の戸や蓮の実めをまねて宮とむ　邦
めのこ子のくゝ風の夕ゝ生　兆
押合て蓮ていふてうつ俗まつら　蕉
たゝらの毛のまゝ赤き実　来
一樽歡つゝる宮の夕九　兆
牡丹の古実みゝ芽かゝろ　邦

去来九芭蕉九凡兆九史邦九

市中ハ物の白ひや交の月　凡兆
行〳〵〳〵と門くの夢　芭蕉
二番さくら果さん稚ふたて　去来
原うちてゝゝうゝ一枚　兆
此笠ハ張も足初を月出ま　蕉
たゝこひゝ〳〵ちさ孤猪　来
夕村う捨てうるゝ蔦　兆
蔦の芽ゝうゝ月より姫　蕉
道ゝのおゝいゝ実のつゝむ時　来
雑色の古尾のゝいゝうき　兆

魚の骨ゝふるこの老ゝく　蕉
待人ハ〳〵山ゝ門の猛　来
ゝゝ屋風と刺を世ゝ　兆
湯殿ハ行の実ゝ月ゝき　蕉
苗香の実と咲実を夕蒐　来
俗ゝゝさゝ寺ふゝるゝ　兆
ゝゝ川の猪と世を俗る秋の母　蕉
年ハ一汁の塩ゝゝうし　来
五六年生末つけゝる　兆
ゝ袋ふゝよゝ尻ゝこの道　蕉
遊ゝゝ寺ゝ俗る刀持　来
てゝちゝ前ゝゝゝゝゝ　兆
戸陸ゝゝ刺ゝかゝひの実屋会　蕉
てん〳〵ゝゝ〳〵ゝ　来
ゝゝ〳〵ゝ実ゝ　兆
実ゝゝゝ俗ゝ月ゝ　蕉
ゝのゝゝふゝゝゝ俗ゝ秋　来
ゆゝみて蓮のゝゝ穂　兆

[illegible] 蕉
[illegible] 来
[illegible] 兆
[illegible] 蕉
[illegible] 来
[illegible] 兆
[illegible] 蕉
[illegible] 来

九兆土 芭蕉土 去来土

灰汁桶の雫やこの夕くれ　九兆
あつかりそうて宵寒し　秋蕉
秋雨や降つけふ　野水
なつかしう蛍一十の光つき　去来
あの代官とさもあらばこそ　蕉
芋の葉のたれかくれ雲降る　兆
雫ぬて肌ふ降るまの弱　来
摩耶うち振ふ雨　水

夕めしふのまはこ吟つて見せる　兆
秋の日雨とうたてうたて宇陀よさ　蕉
かのおもひをふい雨ふりて体見ふ　水
迎せそしこと変ようのふ　来
金沢と人ふようるる分の雨さ　蕉
あの風名ちさのよひくの月　兆
町内の秋を天の明やすを　来
ひとうとうふ雨　水
花ちる分い雨金の雨さく　蕉
ふるの孤芳ふまとられて　兆
うるやう山信つふ平ふ　水
紫さそ雨のもをかうる　来
ふうのあれふうるか雨　兆
蛙の弛をうふ雨ふく　蕉
ちさまうふ雨の秋雨ふて　来
行ふもひ叫　根のなく　水
夕月夜雨の芳るの巴扇る　蕉
人もうまれしあうふのう　兆

うそつきに自慢いはせて遊ぶらん　水
又も大事の鮓を取出す　來
堤より田の青やぎていさぎよき　兆
加茂のやしろは能き社なり　蕉
物うりの尻声高く名乗すて　來
雨のやどりの無常迅速　水
昼ねぶる青鷺の身のたふとさよ　蕉
しよろしよろ水に藺のそよぐらん　兆
糸桜腹いつぱいに咲にけり　來
春は三月曙のそら　水

凡兆九　芭蕉九　野水九　去來九

餞乙州東武行

梅若菜まりこの宿のとろゝ汁　芭蕉
かさあたらしき春の曙　乙州
雲雀鳴小田に土持比なれや　珎碩
しとぎ祝うて下されにけり　素男
片隅に虫歯かゝへて暮の月　州
二階の客はたゝれたるあき　蕉
放やるうづらの跡は見えもせず　男
稲の葉延の力なきかぜ　碩
ほつしんの初にこゆる鈴鹿山　州
内蔵頭かと呼声はたれ　蕉
卯の刻の箕手に並ぶ小西方　碩
すみきる松のしづかなりけり　男
萩の札すゝきの札によみなして　州
雀かたよる百舌鳥の一声　智月
懐に手をあたゝむる秋の月　凡兆
汐さだまらぬ外の海づら　州
鑓の柄に立すがりたる花の暮　去来
灰まきちらすからしなの跡　兆
（名）春の日に仕舞てかへる経机　正秀
店屋物くふ供の手がはり　來
汗のごひ端のしるしの紺の糸　半残
わかれせはしき雞の下　土芳
大胆におもひくづれぬ恋をして　残

身はぬれ紙の取所なき　芳
小刀の蛤刃なる細工して　残
棚つりたとかきて大年の遣　園風
うつりとはおのれに浮し江戸の浦　猿雛
むかふ合せ見ゆるかたさきぬ　残
此寒きこの入めとよる破扇　風
籠沖ねさせて志ろく見ゆる　雛
嘆きの備ちらちら縁つくひ　芳
深くかすかに流とてめん年歟　風
形れき續とおそひくる今体皇　嵐蘭
うきてくる作の創に給　史邦
花に来ぬまてあかしのつまて定らば　野水
雛の徒を深るとる。のせ　羽紅

芭蕉三　乙州九　土芳三　珍碩三
園風三　素男三　猿雛二　智月一
嵐蘭一　凡兆二　史邦一　去来二
野水一　正秀一　羽紅一　半残四

幻住庵記　芭蕉艸

石山の奥岩間のうしろに山有國分山と云そのかみ國分寺の名を傳ふなるべし麓に細き流を渡りて翠微に登る事三曲二百歩にて八幡宮たゝせたまふ神躰は弥陀の尊像とかや唯一の家には甚忌なる事を両部光を和らげ利益の塵を同じうしたまふも又貴し日比は人の詣ざりければいとゞ神さび物しづかなる傍に住捨し草の戸有よもぎ根笹軒をかこみ屋根もり壁落て狐狸ふしどを得たり幻住庵と云あるじの僧何がしは勇士菅沼氏曲水子の伯父になん侍りしを今は八年計むかしに成て正に幻住老人の名をのみ残せり予又市中をさる事十年計にして五十年やゝちかき身は蓑虫のみのを失ひ蝸牛の家を離て奥羽象潟の暑き日に面をこがし高すなごあゆみくるしき北海の荒磯にきびすを破りて今歳湖水の波に漂鳰の浮巣の流とゞまるべき芦の一本の陰

もしく軒端茨あらため垣根結添て
卯月の初いとかりそめに入し山のやがて出じと
さへおもひそみぬさすがに春の名残も遠からず
つゝじ咲残り山藤松に懸て時鳥しばしば過る程
宿かし鳥の便さへあるを木つゝきのつゝくとも
いとはじなどそゞろに興じて魂呉楚東南に
走り身は瀟湘洞庭に立つ山は未申にそ
ばだち人家よきほどに隔り南薫峯より
おろし北風海を浸して涼し日枝の山比良
の高根より辛崎の松は霞こめて城有橋
有つりたるゝ舟ありかさとりにかよふ木樵の声麓の
小田に早苗とる哥蛍飛かふ夕闇の空に水鶏
の扣音美景物としてたらずといふ事なし中にも
三上山は士峰の俤にかよひて武蔵野の古き
栖もおもひいでられ田上山に古人をかぞふさゝほ
が嶽千丈が峯袴腰といふ山有黒津の里は
いとくろう茂りて網代守るにぞとよみけん万葉集
の姿なりけり猶眺望くまなからんと後の峯に
這のぼり松の棚作藁の円座を敷て猿の腰
掛と名付彼海棠に巣をいとなび主簿峯に
庵を結べる王翁徐佺が徒にはあらず唯睡癖
山民と成て孱顔に足をなげ出し空山
に虱を捫て座すたまたま心まめなる
時は谷の清水を汲て自ら炊ぐとくとくの
雫を侘て一炉の備へいとかろしはた昔
住けん人の殊に心高く住なし侍りて
たくみ置る物ずきもなし持仏一間を
隔て夜の物おさむべき所などいさゝか
しつらへりさるを筑紫高良山の僧正は加
茂の甲斐何某が厳子にて此たび洛に
のぼりいまそかりけるをある人をして額を
乞いとやすやすと筆を染て幻住庵の三
字を送らる頓て草庵の記念となしぬ
すべて山居といひ旅寝と云さる器たくは
ふべくもなし木曾の檜笠越の菅蓑計
枕の上の柱に懸たり昼は稀々

題芭蕉翁國分山
幻住菴記之後

何世無隱士以心隱為賢也何處無山川風景因人美也間讀芭蕉翁幻住菴記乃識其賢且知山川得其人而益美矣可謂人与山川共相得焉迺作鄙章一篇歌之曰

琵湖南方國分嶺
古松欝々緑陰清
茅屋竹緑繞數間
内有佳人獨養生
滿口錦繡輝山川
風景依稀入俳城
此地自古冨勝覧
今日因君尚益榮

元禄庚午仲秋日　震軒具草

凡右日記

時雨脊中えてやる蓑う那　曲水

[illegible] 野水
[illegible] 去来
[illegible] 允兆
[illegible] 千那
[illegible] 珎碩

贈紙帳

[illegible] 野徑
[illegible] 里東
[illegible] 乙刃 脇所
[illegible] 怒誰
[illegible] 探志
[illegible] 元志
[illegible] 泥上
[illegible] 史邦
[illegible] 正秀
[illegible] 七人 柳陰
[illegible] 如行

[illegible] 推の[illegible]

[illegible] 脇所 抑水
[illegible] 美臣 無井 市隱

文上云ふす

[illegible] 半残

[illegible]

書音

[illegible] 之道

[illegible] 長寺 魯町

[illegible] 及有

贈蕎

[illegible] 尚白

[illegible] 北枝

[illegible] 木節

包紙ゟ書

[illegible] 膳所 扇

[illegible] 智月

[illegible] 羽紅

○猿蓑

梅の梅やきれてやきもちくて　昌房
里いまだ夕めしくさくの　何処
時やいつ〳〵ちのこまるこの　越人

越人と同じく訪ふ

蓬の宮の竹ふと庵入るかな　等栽

朋年孫生長旧庵

まつやいつ〳〵ものしらぬ　岚蘭

同　夏

きつ〳〵とやけたる人は　曽良

跋

猿蓑者芭蕉翁滑稽之首韻也非比彼山寺偷衣朝市須冠笑只任心感物写興而已矣洛下逸人允兆去来随翁遊学棋舘竹窓躐等凌節斯有嵗屠撰此集玩弄無已自謂絶超狐腋白裘者也於是四方唫友憧々往来或千里寄書々中皆有佳句日蘊月隆各程文章然有昆仲騰士不集録者索居竄栖為難通信且有旄倪婦人不琢磨者鹿言細語為喜同志雖無至其域何乗其人乎哉果分四序作六巻故不遑廣搜他家文林也維貶元禄四稔辛未仲夏余掛錫於洛陽旅亭偶會兆来吟席見需記此支題書尾卒援毫不揣拙庶幾一蓑高張有補于詞海渙人云

風狂野衲　文艸漢書

正竹書之

續猿蓑

八九百年を経る柳の邨　芭蕉

まのうゝもの畠かるゝ志　沾圃

神義をるゝ生ゝ[illegible]　馬莧

四いとゝつゝ晩の[illegible]　里圃

きのふゝ日和ゝまる日の春　沾

物皆うれて机をゝ[illegible]　蕉

深秋もゝゝい風ふれゝ　里

孫ゝ紙とる狐文の信　莧

紙さゝゝかくて[illegible]　蕉

煙をもまゝそけや厩の泥　沾

物売のゆきゝつけ賣ゝ来て　莧

十里もうゝの金不く出ゝ　里

雀の巣ふゆ残好ておりゝ　沾

ゆくまゝ門なし門の書つけ　蕉

いゝくゝ陸ゝ波ふれき湯殿　里

四川と宮ゆきそ京の尾つ生　莧

蕉　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

馬　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾

[illegible] 里圃
[illegible] 沾圃
[illegible] 芭蕉
[illegible] 馬蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里
[illegible] 蕉
[illegible] 沾
[illegible] 里

草の葉にくねりあふの風ちらつ　筧
伊駒かくるゝ綿とりの雨　沾
うき旅ハ鵯とつれだつわたりける　里
まだ明ぬうちに咄し行るから　筧
紫苑の花の中より湧つゝ出て　沾
柳の傍へ門をさしてけり　里
百姓になりて世間の寒さよ　筧
こまかなと猪にあつかめ斤量　沾
淀舟の泥浅つくしおもはし垂　里
冬ふのあれさちてよりもせぬ　筧
砂を這ふ藪の中の絡緯(ギス)の声　沾
おもと人かいひおもはく泛　里
火燵の火いけて物事尽さらせ　筧
一くるまし　雁の来　沾
折しくハ実月の乳る在宮柏　里
酒ふ加減のちらふおもさき　筧
目きりこしたなことを堪てる　沾
四方のやくふ駕籠て座頭やく　里
手拂に娘をやりし嫁のさゝき　筧
うらやみの花とこちらく社立る　沾
花の名し躑躅のさとうあもしろい　里
寺のひけくる山添の麦　筧
香よりハまつなつかし池の鷺　沾
一雨ふりてあつくされ風　里

猿蓑にもれたる霜の松露哉　沾圃
日は寒けれど静なる岡　芭蕉
水かるゝ池の中より道ありて　支考
篠竹まじる柴をいたゞく　惟然
鶏があがるとやがて暮の月　蕉
通りのなさに見世たつる秋　考
盗人にあひし一夜で寒さる鶉の更　然
宮守の庵となりておもしろくなり　蕉
舞つ来てみ問ハせたりに物臆　考
中国よりの状の吉左右　然

朔日の日ハどこへやら振舞れ　蕉
一重羽織が失てたづぬる　考
きさんじな青葉の比の樅楓　然
山に門ある有明の月　蕉
初あらし畑の人のかけまはり　考
水際光る濱の小鰯　然
見て通る紀三井ハ花の咲かゝり　蕉
荷持ひとりにいとゞ永き日　考
こち風の又西に成北になり　然
わくまり脇をたてるうらゝゝ　蕉
淀舟の問儀ハ今夜取かゝら　考
嵯峨のさくらハむざとちられぬ　然
大せりに二月ある年の暮　蕉
雪の夜おもしろき中の流道　考
丁稚の奈(?)擲て皆出て家荒　然
奥の世並ハ近年の作　蕉
溜まりを青のやぶき見えて　考
赤鶴坊と定ぬ正めん　然

宮こぬ娵のこゝろ定まる志川之　蕉
森汁のとまる今朝ハこの夏　考
京筑とうゝしと切こす松の風　然
大工づかひの奥に聞ゆる　蕉
米搗もとつらいよしと縁うくし　考
うら見て市の中を抑しあふ　蕉
此あたり海ハ花のけふれて　然
鴨のあつものまくもあけぬ矣　考

今宵賦

野盤子
支考

今宵ハ六月十六日のそらみずにかよひ月ハ東方の乱山にかけて衣裳ハ湖水の秋とぬくみむされハ今宵のあそびもはじめよりそる早の席とくらふこと志そく酸てみちらそ人々とく小鯖をうつて比ふて時々ひ山とおのゝとまくかなりなそる人々さくさらふ人を出て〳〵めんとふあらし孫そあ

なこのちふ弁のこくこをかくめん作羅のれ
こ志こうひふうの奥とも雷〜しるもと
つよて作りるる伝愛ハ保川のそ尾吉も
のそ秋とりさくめくくくくくれつこ氏月の
あくひとくくうて伝答の山中よ丈毋の古
墳とくくくひ法の原係山庭羅〜〜く
加義祇園の宮こふもくくくくくくくれ
作りく秋とまく紙久んくものふふさん
う湖めの納海ともも紙くくくてまと
三江里の美くと塙くちくく主義の寫
とくむ今宵くあくく法氏とあくく
て傍あく伝行く傍よて傍よ似さる
ものあくとそのまくくくのあくきものく成川の
峯ふ小杉とらくくくくくくくくくくくくくくくくくく
なく〜幾年あつしく人くのくくむき
てわをくくく似くれとあれつくくよく
くる色人の新ふくひてあをえす給

時くくあものくふきくくくまして魂あくる
作を伝度も吉さくの方へくんくくさん
しを文考をいをの方ふ作とくく求て
時名の沉ハむくむくくくくくくくくくくく
くくを湖のくくあくのやてをくくくふ
をくくくれていく川ふ作あくくくくくん
考ふの今宵をくくくくくくくくくくくく
きくくく沉今宵の無宵作をくあくくん
くくくふ殺くく作るものあくくく罰金の数
よあくとのまをくんくくくくくくくくあくあ

文の表や嚴くくくくくくくくくくくくくくくくくく
家いをくくくくと芭の孫生　曲翠
芭いいくくくの程くくを人て　卧高
吉さ芋嚴くくくくくくくくくくくくくくく
身新の宝ん作ちくよる色の色　唯然
をまふて作とふる考くく　文考
拙と拙情のあく遥ふくく　芭蕉
翠

山から石に名と書て出しを　高
飯櫃なる面桶にはさむ火打鎌　然
鳶て工夫をしたる照降　考
おのかるの哥によまする橋の霜　蕉
持佛のかほに夕日さし込　翠
平畦に菜を蒔立したる綿　考
秋風わたる門の居風呂　然
馬引て賑ひ初る月の影　高
尾張でつきしもとの名になる　蕉
餅好のことしの花にあらはれて　翠
西も東も襷をよこさまて　蕉
ま風呂普請のつゐてにはき　高
薪からう村へぬけるうら道　翠
嘘かみぬ聟し男もほきめく　高
行その時も山伏になる　然
笹流しを棒に付くるたきさの露　考
蔵こいふる卯月晦の末　蕉
相宮と隣らんふら川よ木の町　翠
漆の日和り雪の氣まひ　然
香ところ〱をとせぬ酒の川さらし　翠
花鶴の分と舟へあかる　高
封付し文箱来る月の暮　蕉
そろ〱ありく里のよ稿れ　考
香炉つる比宗の角の河原町　然
こゝ脚をあくる表一国　翠
今のまに淺をとられ橋のこ　高
たまれ繪のそんに字甲る　然
豊なる花にも鹿押よせて　考
櫛かけつきし藤棚の下　高

春之部　花桜

温石のあかるゝ夜半やはつ桜　露沾
暮時分に文なき月か初桜　其角
新に似ぬなかるゝも出て初桜　芭蕉
ちら〱や雨の後くゞる花の山　洞木
角かれし人そうらや花の友　文草

花ゑてけうとるものやうなり　洒堂

留主なる酒屋よあるじひとりあるじて文をかくなり

白雄のまきれわふ世よ宮の花　惟然

酒給屋う琴の音せよ宮の花　支考

勝手して酒屋さそれうさうさら梅

人の家ゆかく窟いしいしを川梅　沾徳

くもりや四月中の花のわ面　猿雖

七ようよう花ゑふ和るる世中ふ　陽和

又る新ものふとろやを川梅　乙州

咲花とひしうしきれる者ふ　木節

ゆとを花ゆふうえ屋ふうら梅　沾荷

二の梅やさくらに咲ちむ綱の梟　子珊

善悪の出方ふひしうく梅ふ　卓袋

田家

蒟蒻の名物とちん山さくら　李里

咲うる花や仮茶ゑ十石　桃首

山門ふ花めくくしふのうう　一桐

なるれ水の梅もあくうる花の影　如雪

花ゑをきせて仏ふ人い雖　其角

ちれやふ垂家ふ花の去　少年　鷺

めう垂花ものうや新の花　卓袋

一日ハ花ゑのあてや旦れ寺　沾圃

八幡様ふ山と梅る方ふ蕗ふ　仝

岩菜

濡紙や蘇こ土ちら　嵐雪

兼の明やむ泥の うう菜うれ　曲翠

夕陽の ふきうやる薺ふ　孤屋

一うふの牡丹ハ色うう菜ふ　尾頭

梅　附柳

まつやく宇色くの人月と梅　芭蕉

きくくらくやたふ梅の花　野水

ちう梅のあうれ者し　其角

里坊う雖きくやを梅の花　昌房

投入や梅のおるハ蔵の墓　良品

病僧の色くく梅のうう　曽良

あくうう死ふ長尾うう梅花　万乎

蔦の葉や梅の陰まで下枝の紅　魚日
ちる梅や くるふ乳母が行うら　千川
蕪売や梅のあるひとゝ義経　大舟

天神の社に詣て

分入つけと行るや梅の離きく　遊糸
ちれ〳〵の鶯の梅のちるや梅柳　千那
吹〳〵いるふうちゝり川柳　意元
ちるを惜くちるや古柳　江東 李由
ちる梅のちれ〳〵まやるの曲　九節
梅とうけてゐる宗匠ゐる柳　巴文

鳥附魚

ちるふ雲力くるる羹（ナゲシ）　其角
くるしちやゆふ擬鵜の風ちる　史邦
ちるふるのし俳めんなるもと　智月
蔦や柳のうしろ義のまく　芭蕉
鶯も引けと絡のゐる　去来
ちるやちる蕎ふつくまん絡のこゑ　洒堂
弱るの月ちるやちるゐる柳　傘下
弱るの蔦ふ紙合しき白行灯　長虹
燕や田とちるうるるのあと　野童
巣の中や多と細して沢蕉　峯嵐 少年
井子や婦ふ世ひし絡の梶　槐市
蠅ちるふちるく雀の子阿ふ　河瓢
り蛙や乱風ふつれての磯時み　釣幕

芳野西河の滝

鮎のるの ふをさまし滝の音　土芳
かけちるふし芦ふちるふ鉢ふ　圃水
ちるこゑの つかるまりや沒るる　子珊
白雲のちるる世ちるるくし　山蜂

滝川ふあるて

ちるこゑとふるふ ちるる小　其角

春草

なるるるる影くるる世俗やまの音　正秀
ふふやゐふつけるる滝の道　岬筋
まのるるゐふれのるふれる尾　羽紅
川流や清とやもむるあしの角　猿雖

宵の月ちらや土筆の出しう　闇指
味ひや梅の花ふよりちらうたき　車来
蕨たち咲そふものを鬼あさし　荒雀
焼よりうちん蕨れい菫　馬莫
踏ちらく土焼の切目や蕨の穂　拙侯
ふし例を形ふ蕨ちく土大拓　乃龍
手ちんや芝ちり山の形ちり　正秀
味噌漬茄子のふりよ肥る三茎　夕可
日の新ちり猫の抓ひ抓ふ　一桐
蒲ス芽や芽ちいそちめ蕨　圃落

猫恋　附胡蝶

ちち新や猫ふちふ常猫の恋　探九
うき恋ふちてや猫の恋舎　文考
ちちちちの宵ちける空猫ふ　美佐巳百

白日志川之地

ちちちて趣い節く胡蝶ふ　柳梅
云文恋のちちの花恋さ蝶の　惟然
蝶の奇切川る稜ようちちる　闇指

出羽重行

ふ作ふ奇の如ちる少鯨ふ
ちち森ちて恋ふ世ちて恋胡蝶ふ　雪窓

春鹿

猫恋ちちや恋の廉の角　沢雄

春耕

ぬ猫のちちあてちう桜麻　木節
茄礼や芝絶ちの青麦新　此筋
千刈の田とちてちし殺波人　一鷺

桃附桜

白桃や ちちてる義を桜の色　桃蘇
今桜いちと咲ちり桃の花　介我
伏ちちし茶摘のよの桃の花　雪芝
桜ちちち中ちちちり桃の花　水鴎
義ちちち桃や乾麻岐の桜蕾　其角

江東の雪由ち紙文の雲四の法ちに
おのく経文弘のちち白ふ法花の
光四ちふちと

小豚鄉ふ光ちとやち世もつちき　角上

[illegible] 殘香
[illegible] 洞木
[illegible] 野坡

歎冬 附鄭鶴 藤

[illegible] 闇指

田家の人ふ對して

[illegible] 洒堂
[illegible] 雪芝
[illegible] 荊口

夷月

[illegible] 長崎 魯町

夷月附 夷月を 陸

[illegible] 荊口
[illegible] 乃龍
[illegible] 游力

なふふ[illegible]を馬ろ武江の旅居と

[illegible]時

[illegible] 文考

春雨や出[illegible] 挑首
[illegible] 凡麥
[illegible] 凡睡

汐干

[illegible]の石の直

雜春

[illegible] 去来
[illegible] 闇指

出[illegible]あそれ勸る[illegible]加世 許六
[illegible]桐の苗 凡睡
[illegible]この松の[illegible] 土芳
[illegible]の[illegible] 配刀
[illegible]の[illegible] 万乎
[illegible]毋ふ物語や[illegible]市の中 苔蘇
[illegible]川雀[illegible]めけ条 天保 均水
[illegible]の中の[illegible] 正秀
三尺の剱を[illegible] 仙花
[illegible]の中山[illegible]也 田[illegible] 文浪

三月[illegible]

[illegible]

歲旦　文考

[illegible]　武仙　少年

[illegible]　百歲

[illegible]　尚白

[illegible]　圃落

[illegible]　山蜂

[illegible]

詩[illegible]

と老叉の文[illegible]　千川

[illegible]　芭蕉

[illegible]　其角

[illegible]　嵐雪

[illegible]　去來

[illegible]　土芳

[illegible]　凡睡

[illegible]

[illegible]　猿雖

[illegible]　蔦雪

[illegible]　野童

[illegible]　耕雪

[illegible]　左柳

[illegible]　前川

[illegible]　斜嶺

[illegible]　山蜂

[illegible]　任行

[illegible]　竹戸

[illegible]　是楽

[illegible]　沾圃

[illegible]　圃角

○續猿[illegible]

夏之部

郭公

[illegible]　其角

[illegible]　文草

[illegible]　曽良

[illegible] 朝[illegible]山　文考
[illegible]の[illegible]　如雪
[illegible]の[illegible]　芦本
[illegible]

[illegible]の[illegible]　沾圃

木附草花

[illegible]や　中やう　沾圃
[illegible]　闇指
[illegible]　野荻

園中二夕

[illegible]の[illegible]　此筋
[illegible]柿の[illegible]　千川
[illegible]の[illegible]　素龍

[illegible]山家の百合

[illegible]　文考
[illegible]　尾頭
[illegible]　沾圃

[illegible]　杜[illegible]　伊賀　宇多都
[illegible]　拙候

[illegible]の[illegible]

[illegible]　沾圃
[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]　亡人　嵐蘭
[illegible]　残香
[illegible]　此筋
[illegible]　白雪
[illegible]　良品

瓜

[illegible]　芭蕉
[illegible]　至暁

[illegible]

[illegible]　凡弦

早苗

[illegible]の[illegible]　長崎　卯七
[illegible]の[illegible]　闇指

ふるる分の植られし苗代
田植奇まてれる熱の風の中　魚目
一田つゝ残りてうゑやものの音　重行
早のあり蕨採る子の苗うゑ　北枝
　　文考

蛍

松生天の煙かすかるる蛍うゑ　許六
ふるるふるの音い明るうる　野萩

納涼

涼しさや世の中の人の義てこん　半残
江集花や屋敷ふもふの涼　惟然
　　源川の蛍ふ音して

さしさや風あたらの名涼　史邦
涼しさや加茂とをての涼ひる　重翠
ふるふも京の門明くくるまて　長崎 杜年
涼つしさよ年の屋敷て川の中　万乎
　　漫興三句

絡うけて中ふしきし涼るの水　洒堂
涼しさや涼より見とふるる　文考

雪芝

涼風ト物ふしと雲のうれふ　游力
いろ〳〵さ中とあるくる涼うれ　仝
ふあ〳〵〳〵人ふまきれてまふ　去来
路行ふるまるまるや石のと　正秀
職人の惟ふきるるみ　土芳
涼しさや一生ね織の風ふまち　我眉
夜涼や切りへの見せいなるる　里圃

盛夏

かるるるや見るるまりしの風　野萩
夏のあるふんせのわるりの見ふ　万乎
　　蔵醤者のいさめ涼のるる
けふもしい涼て楽絵の見ふ　正秀
ふる菖の肉のあつさや樫ふ　乙州
蝶さうるり蝉あつ〳〵蓋所　恕風
涼や一泊もしまるめる邪　素覽
夏の戸や見るを見るふて　我峯

[illegible]　印苔
[illegible]　卓袋
[illegible]　里東
[illegible]　沾圃

行のゝ

[illegible]　可誠
[illegible]　曲翠

[illegible]月雨　附夕立

[illegible]　不玉
[illegible]　芭蕉
[illegible]　沾圃
[illegible]　拙候
[illegible]　苔蘇
[illegible]　暁烏
[illegible]　圃水

蟬

[illegible]　正秀
[illegible]　胡故

[illegible]　乙州
[illegible]　暁烏

[illegible]月　附夕立

[illegible]　杉瓜
[illegible]　荊口
[illegible]　如真

川狩

[illegible]　文烏
[illegible]　葛雫
[illegible]　水鴎

[illegible]　馬莧
[illegible]　重翠
[illegible]　野童
[illegible]　水鴎

晋の渕明

宮守よ后家の蚤や草　芭蕉

粘ともれ帷子かぶる后家かな　惟然

貪僧のうしろみの寒さかな
よけるふさふ夏日の洞縁は翁等
みえてせうふ交る

帷子の袷んはやさし涼文百　文考

穐の部

名月

名月にふかくの芳也田のくろ　さま銭

名月の花かとみえて棉畠

名月の花かとみえてといへるは名月の
秋この二句とおもしろしといへるが
どの御前にと待ふにはせるやの
川へさせて月とよ川る根のさまて
されみなあらくさ初时る名のれと
園経かふしの事をうかまれし禁れて
芳様ハうまれて平田淵しと

草かくるは老杜が唯雲水のさまあり
と云るふうにおけるものあらしその
次の棉たらけは言葉に兼ていく
らもれやありけるがいものむ
石の一節に便あらん月のくろの色
もたなそ次ふうを花とおもしろく
そうかをおもひやられはさら
清香清風に詩ありて其時の
るとかれをまつくは其ハ寂寞とも
新し清く風興とかちらにれらん
何を花とまかるるをたのさむそ
清の人なれあるべし

文考評

名月の海より冷る田蓋かな　洒堂

明月や雨のかかりて波の月　如行

かのくのん桂うちん月乃不　露沾

ふく川おくハ中うんやまんうな月　智月

名月や生死の海を人のり　闇指
明月や六科ようのうまのうあ　凉兼
明月や庚申待る隙となし　不玉
中切の梨子賞のつく明る　配力
名月や芋のつくねの白き花　左柳
明月や乞食の松ふ人もあり　囲水
面白ふあてたるやうの月　山蜂
明月や高砂ふ門しらて　風国
名月や四方人のうつ〳〵帰る　需笑
老の名い今宵の月も四てこそ　重友
明月ふうれし星の高ふう　泥芹
いせの山角ふあてかりの高と
おりひうろうろ地こうめる月ふ　文考
二ろくまて高地こうめる月ふ　空牙
芋の蔭と烟もてはしん月ふ　如真
柿の名のみ助と名ふ月ふ　宗比
山雪のうつさし蕭あや雪の月　木枝
名月や里のふうひのうろ笠

橋ふ居ふ月ふなうや蓮機　利合
明月也あのしまふ紅女中方　丹机
四月や行と拾ふ秋の道　野荻
名入のあよふと月ふ　正秀
流川の行ふ月ふ
五川のうふふよふ月ふ　文草
行ふの月ふ居ふ　景桃
家ふ三老ふ
秘してつふ行ふ
時雨と雲ふのうや月ふ　沾圃
雲ふ月ふて月入あふや雄のゆ　馬莧
雲ふうふ月ふ梅ふ　里東
月ふうや山の雲ふ也ふ　牧童
流川の手雲ふ松ふ
川ふてふこの川ふの月や　芭蕉
十六夜いふうふ山雲ふ　仝
いふうふ国のうふ月ふ　猿雖

文月や六日の菖蒲十八日　惟然

星合と二人ながらや天の川　涼葉

新蕎麦の白きを見て秋の来る　東潮

たなばたの逢ふ夜の雨や星の涙　沽圃

新風や蓮の葉の露の玉　乙州

立秋

粟ぬかや虫ふるふる秋の露　露川

秋の川中山路の雲の峯　尤次

秋草

新蕎麦の花遠き桔梗かな　柳梅

細ふかれふかれぬる桔梗のつるかな　随支

ぬか雨に濡れぬる青の柳かな　濁子

とられて物足の秋ふかれけり　馬莧

一きちい花のふちちゝ胡麻　烏栗

弓固ちゝ花ちゝれや蕎麦ま　文浪

贈芭蕉庵

百合ゆゑと芙蓉と活る命かな　凡麥

さゝ蝦のふちゝ寿ゝつまる花　史邦

桔梗の花ふちゝ新酒の花　万乎

新酒や月の出る時杯あり　芭蕉

新酒のちゝ酒ぬり紅かな　至境

おゝ雪やふきる蕨の拳　雪芝

芋の葉ちゝ秋の風　荷兮

山人の屋敷と志れ芋ちゝ　賀山中　桃妖

風ふき出ちゝ芋ちゝ　杉下

朝うれ

新蕎の蕎ちゝむ落月　田上尼

あさうれの這ふて志ちゝ御かな　闇指

あさうれあさうれて湯の水　凡麥

新のうれふちゝれし人や製帽子　其角

虫附鳥

きりぎりすの侍ふ行ちゝむいちゝかな　女可南

竈るや新ふ志ちゝふちゝ鵜　北枝

犬の腹て鵜ふきちゝ屯の鮮　正秀

秋の夜や蕎と鼻ときちゝを　水鴎

うの屯や形ふ鵜今一月の新　杜若

[illegible]や何の味あるぞ　探九
端郷の後とは[illegible]石のと　蔦雫
蓋の寒ふ[illegible]とて[illegible]塔の空　示峯
ぬけ〳〵小ちらひて[illegible]る秋の蟬　文草
[illegible]るものかなしく浦の[illegible]ふ　馬莧
鶺鴒や[illegible]る白川京　氷固
栗の穂とこあるる時や鳴鶉　文考
老の[illegible]の[illegible]て[illegible]雀　芭蕉

秋風

秋風や二[illegible]この[illegible]時　游力
[illegible]の[illegible]や秋の[illegible]　式之
何[illegible]かくり秋の風　文考
[illegible]の[illegible]秋の[illegible]　凡国
おの[illegible]の[illegible]と空ふ　圃燕
ふんたるや[illegible]ふ[illegible]　九節
あん〳〵て[illegible]ふ[illegible]　猿雖

稲妻

[illegible]稲の夜　少年　一東

稲妻や[illegible]ふ[illegible]の[illegible]　宗比
[illegible]の花[illegible]の[illegible]の[illegible]　土芳
いの[illegible]や園の[illegible]の[illegible]　芭蕉

木實 附菌

園栗の[illegible]て[illegible]　為有
炭焼ふ[illegible]　玄虎
秋[illegible]り[illegible]柿の[illegible]　洒堂
[illegible]と[illegible]　重翠
[illegible]の[illegible]　沾圃

伊賀の山中　[illegible]の史の[illegible]を訪ひて

松茸や[illegible]山の形　惟然
[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉

机

[illegible]の[illegible]れ[illegible]　北鯤

鹿

[illegible]の[illegible]の[illegible]や風の[illegible]　凡睡
[illegible]ふ[illegible]　一酌

農業

[illegible]　車庸

[illegible]　買山

[illegible]　如雪

[illegible]　芭蕉

[illegible]　乃龍

[illegible]　斗従

[illegible]　支考

[illegible]　仝

[illegible]　惟然

[illegible]　木節

大師行[illegible]

[illegible]　沾圃

[illegible]

[illegible]　葛雫

[illegible]　渭子

[illegible]　支考

[illegible]

[illegible]　瓦峰

[illegible]　文草

暮秋

[illegible]　野水

[illegible]　乙州

[illegible]　芭蕉

雜秋

[illegible]　之道

[illegible]　園友

[illegible]　畦止

[illegible]　四友

[illegible]　荻子

[illegible]　万平

[illegible]　宗波

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬の部

時雨 附霜

[illegible] 野坡

[illegible] 北枝

[illegible] 芭蕉

[illegible] 沾

[illegible] 馬莧

[illegible] 野明

[illegible] 閑指

[illegible] 空牙

[illegible] 為有

[illegible] 鶏口

[illegible] 野荻

[illegible] 露川

[illegible] 里圃

[illegible] 沾圃

[illegible] 北鯉

[illegible] 支考

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柚の色や紅あらぬ葉の秀　其角
菊の葉は霜に枯れぬ葉の中　桃隣
八雲の色やあつまる葉の秀　沾圃
何史の かくしふ葉の菊の枝　曽良
葉の色あらぬ花とあらぬ　馬莧

紫菜の陸士子の琴を聴を
ひのふ葉に稀のたまくんを
むくらの造化もうえふ及ぶ
ふるの葉をまふひておのつの
なるをおくしいくれあ雲雨を
琴をうけるふあ風やとく
ふる人竹湘老人琴を送られより
をとのをを新てあるを
あをふ酔をあるを風をくん
あをせて自ふこりぬ
うをを琴や化をぬ葉の反　素堂

草　附木

ふ何や縛ゐれ〜日の遥る　曲翠

なを清く咲や菜ちの小紫　永固
小仙の花のくれや菊屋き　惟然

苑　蟲う趙南のふ家
山家集の鶯ふ家人

一家をとをさぬ葉のおれ　芭蕉
山家花いをう風く帰り花　車庸
ふ桜のひをふ川やふの秀　土芳
山家むし義をや義桜　露笠

木葉　附冬枯　風

おのの葉ふ木の葉ちる紅葉の敷　沾徳
星ををを江の紛ひふ義葉ふ　露沾
ふ川や木の葉ふ葉ふ　惟然
枯葉ふ見をふふを木葉ふ　択風

幸御訪宗比の尾をふ
をふふ生をれてふる義葉ふ　伊勢　一道
枯をを葉ふ初をや如夢花　杉風
牛の角ふ枯枯のちふ　桃酔
ふ枯ふ去をきをを義ふ　乃龍

[illegible]　利牛
[illegible]　支考
[illegible]　智月
[illegible]　凡行
[illegible]　惟然
[illegible]　塵生

夷講

[illegible]　芭蕉
[illegible]　利合

鳥　付いと

[illegible]　句空
[illegible]　舊雲
[illegible]　丈草
[illegible]　指圓
[illegible]　芭蕉
[illegible]　仁木
[illegible]　利雪

[illegible]　車庸
[illegible]　岱水
[illegible]　杉凡
[illegible]　拙候

杜文京に河豚の[illegible]

[illegible]　里圃
[illegible]　丈草
[illegible]　小春
[illegible]　支考

埋火

[illegible]　芭蕉
[illegible]　少年　桃先
[illegible]　洞木

雪

[illegible]　其角
[illegible]　仝

[illegible] 夕菊
[illegible] 雲 祐甫
[illegible] 葛雫
[illegible] 文考
[illegible] 圃吟
[illegible] 文草
[illegible] 陽和
[illegible] 配力

神楽

[illegible] 史邦

[illegible] 路草
[illegible] 馬莧
[illegible] 許六
[illegible] 沾圃

煤掃附煤つき

[illegible] 残香
[illegible] 黄逸

[illegible] 馬莧
[illegible] 美佐 閑如
[illegible] 惟然
[illegible] 岱水
[illegible] 嵐蘭
[illegible] 馬佛

歳暮附節季候 友配

[illegible] 曽良
[illegible] 里東
[illegible] 草士
[illegible] 車来
[illegible] 万乎
[illegible] 李由
[illegible] 其角
[illegible] 正秀
[illegible] 荻子
[illegible] 猿雖
[illegible] 惟然

[illegible]秋よ[illegible]を法をてとしの暮

[illegible]ハ圖司呂九ゥ羽[illegible]ゥ[illegible]に

[illegible]て伊勢[illegible]て[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]あ[illegible]く年の暮　芭蕉

[illegible]ん[illegible]の[illegible]年の中　土芳

[illegible]年[illegible]ゥて[illegible]の中　尚白

[illegible]の[illegible]　少年桃後

[illegible]の[illegible]ゥ[illegible]名　舵山蜂

[illegible]　利合

雜　冬

[illegible]風[illegible]ゥ[illegible]　斜嶺

[illegible]の[illegible]　土芳

[illegible]の[illegible]　李下

[illegible]の[illegible]　仙扶

[illegible]　圃仙

巨燈[illegible]時[illegible]　雪芝

[illegible]の[illegible]日　コ谷

[illegible]人[illegible]の[illegible]　沾圃

[illegible]ゥ[illegible]の[illegible]　杉風

釈教之部　附追善哀傷

涅槃

涅槃[illegible]　沾圃

[illegible]人[illegible]　芭蕉

[illegible]　不撤

[illegible]　山蜂

貧福[illegible]涅槃[illegible]

灌佛

灌佛[illegible]井[illegible]　曲翠

[illegible]佛[illegible]ま[illegible]て二三日　不玉

灌佛や釈迦と行[illegible]ハ[illegible]と　之道

竈祭

[illegible]　嵐雪

[illegible]　去来

[illegible]

甲戌の夏大津ふ[illegible]　沾圃

[illegible]

[illegible]

悼少年二句

[illegible]　惟然

[illegible]　支考

[illegible]

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　沾圃

[illegible]

[illegible]　許六

[illegible]　如行

雜題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　去来

[illegible]　智月

[illegible]　乙州

[illegible]　重翠

[illegible]　野坡

[illegible]　支考

[illegible]

旅之部

送別

[illegible]　荷兮

[illegible]　惟然

[illegible]

[illegible]　芭蕉

留別

[illegible]

[illegible]　丈草

新の子の志ゝ葵るる哉　芭蕉

甲斐のうの山を過るる時

白雲の山を出よかゝる

多ようて牛みのゝ草の秋　木節

稲葉や浮世をめくる行藤山　越人

みへもまつゝいろ川浮や藤の花　野徑

出羽の国山形にて

のけらひとるゝ

そはゝこい岩ほ走る秋の風　公羽

十雨ふれ山つゝ山ふる秋の風　許六

大石の痛所ゝ秋ふる　仝

くるの秋

くるゝさん第ゝいうゝめ重の秋　曾良

つゝくゝ山ゝて秋ふる　猿雖

四ゝのはたちゝれくゝ　我峯

雨つゝて秋あつゝ　史邦

田國のゝくゝ

文雲の秋ゝけい　呂丸

我甫国いくゝ猿の宝う郡　沾圃

常陸の国にあくひとの所ゝ

りまて中ゝ求めんとも

秋ハくゝゝのあくて雨とくゝ

くれハつ秋別所の秋のゝ

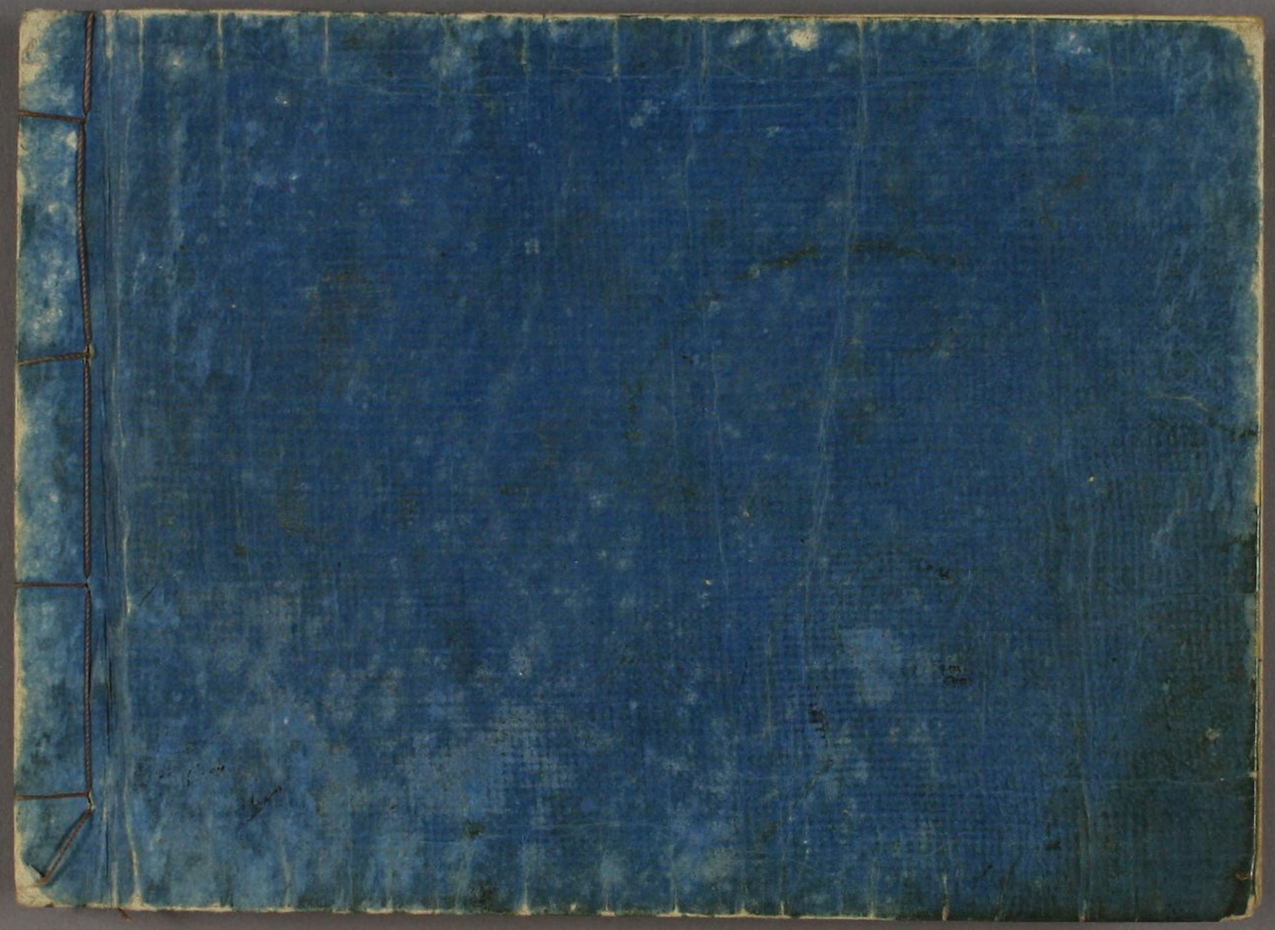
まくゝ

縁ゝ蕎る猿や梅ゝ小屋　湖文考

ゝ川ゝやゝゝふゝ松ゝ　仝

ゝ縁ゝ年のゝ栗はゝ

ゝう武ゝふゝゝむくゝて行国の

驛場年ゝ家ゝいくゝ

宮のくゝゝゝとゝるゝ時雨　芭蕉